

のぞいてみよう！ せんだいの歴史

暮らし編

仙台で開催された博覧会

仙台市博物館 学芸普及室 阿部 さやか

第14回

四月二六日から、「第四〇回全国都市緑化仙台フェア未来の杜せんだい2023」が始まりました。本イベントは都市緑化の推進を目的に、関連する技術や取り組みを紹介する、言わば花と緑の博覧会です。今回はその開催に合わせ、仙台で開催された主な博覧会の歴史を振り返ってみましょう。

宮城県博覧会

日本で博覧会が開催されるようになったのは、明治時代初期からでした。仙台での最初の博覧会は、明治九年（一八七七）に桜ヶ岡公園（現在の西公園）付近で開催された「宮城県博覧会」です。もともと、博覧会と名は付いていますが、その内容は主に古物展示で、見世物や茶席などの娯楽施設も設けられました。しかし、現在国宝・ユネスコ記憶遺産に指定されている「支倉常長像」（仙台市博物館蔵）など、支倉常長らが海外から持ち帰った品々が初めて一般公開された点で、重要な「博覧会」であったと言えます。会場には奥羽巡幸中の明治天皇も訪れ、これらの資料に強い関心を示したことが当時の新聞で報じられています。

東北産業博覧会

大正時代の後半から不景気が続くと、景気回復の起爆剤として各地で博覧会誘致の動きがありました。

こうしたなか、昭和三年（一九一八）に仙台で開催されたのが「東北産業博覧会」です。川内の騎兵連隊跡（現在の仙台第二高等学校）・桜ヶ岡公園・榴岡公園を主な会場とし、川内と桜ヶ岡公園の間には、広瀬川を挟んで各会場を結ぶケーブルカーも運行されました。展示施設も多彩で、特に日光東照宮の一〇分の一模型などを陳列した榴岡公園の「日光館」は人気を博しました。四月一五日から五五日間の会期で有料入場者数は約四五万人に上り、交通各社も臨時便を出し多大な収益を上げるなど、さまざまな経済効果をもたらしました。

'89グリーンフェアせんだい

時代は下り、仙台が政令指定都市に移行した平成元年（一九八九）、七月二九日から八〇日間「第七回全国都市緑化フェア'89グリーンフェアせんだい」が開催されました。メイン会場である泉区の

七北田公園では、会場シンボルの中央花壇がある「テーマゾーン」をはじめ五つのエリアが設けられました。会期中は、来場者一〇万人ごとの記念セレモニー（景品は国内旅行など）や、コンサート等のイベントが連日開催されるなど、空前の好景気だった当時の世相が感じられます。市内外から多くの人が訪れ、フェアの総来場者数は一三八万人以上に上りました。三四年ぶりの開催となる今回の緑化フェアでは、メイン会場となる追廻地区を中心に、緑に関わる展示やイベントが行われています。また、仙台市博物館では緑化フェアの開催を記念した展覧会「伊達政宗と杜の都・仙台―仙台市博物館の名品―」を宮城県美術館で開催しています。こちらにもぜひ足を運びください。

※新聞表記で統一しているため、人物名に敬称を付していません。



「'89グリーンフェアせんだい」会場写真(仙台市博物館蔵)

宮城県美術館
で開催中!!

4/26
6/18

仙台市博物館の名品

伊達政宗と
杜の都・仙台

第40回全国都市緑化
仙台フェア開催記念



仙台市博物館の最新情報は、ホームページでご確認ください

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ [仙台市博物館](#) 検索 ▶お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)
▶博物館ツイッター @sendai_shihaku TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。